晩秋を迎え、朝夕は日中と比べて随分寒くなり、初冬の装いを感じる今日この頃。
園庭に出ると、子どもたちは縄跳びをしたり、大型遊具やジャングルジムに登ったり園庭を所狭しと走り廻ったり等、一人ひとり様々な遊びを繰り広げています。
米国の哲学者、ロバートフルガムは人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだと述べています。乳幼児期の遊びの中にこそ、人間が生きていく上で大切な学びがあるのではないかと言えるのではないでしょうか！
　教育は、子どもの善さを引き出すことにあるとも言われていますが、人間の短所は直ぐに分かるが、長所を見つけることは簡単なようであって、なかなか難しいものがあります。まして善さを引き出すことは本当に大変なことと言えます。子どもの持っている生まれた気質は子ども一人ひとりにとって掛け替えのないものであり、その子の特性として受け止めていくことが最も重要なことだと思います。子ども一人ひとりを温かく捉え、生まれて来たそのものに、存在意義を見出し子どもを丸ごと受け止め、
　心から愛することが、保育者の果すべき大切な役割と言えるのではないでしょうか。
近年子どもへの虐待が全国的に増加の一途を辿っています。1989 年に子どもの権利条約が採択され、３０年近く経過しますが、その権利条約の中に子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」など四つの権利が上げられますが、今一度子どもの一つ一つの権利を改めて噛みしめ、子どもと向き合っていければと強く思っています。子どもの幸せを願いばかりです。
さて、すでにお気づきの保護者の方もいらっしゃると思いますが、来年（平成３１年度）より幼保連携型認定こども園に移行することとなりました。詳細につきましては後日説明会を開き、お伝えしたいと考えています。何卒ご理解・ご協力下さいますようお願い致します。

園　長